

平成23(2011)年度国立衛研シンポジウム開催

広報担当 宮原 誠



国立衛研シンポで開会の辞を述べる大野所長

国立衛研にて撮影 2011年

2011年11月25日午後当所講堂で平成23年度国立医薬品食品衛生研究所シンポジウムが開催された。国立衛研の活動を国民の皆様幅広く紹介し、その理解を得る事を目的としている。国立衛研の4つの分野の内、2011年度は医薬品関連分野の話題から「医薬品・医療機器 事件と事故のサイエンス」を主題として、6人のシンポジストによる講演が行われた。会場には所外からの81名を含め120名の参加者が集まった。その中に薬系大学の学生、PMDA、医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス財団、地方衛研の研究者、製薬・医療機器業界等の人々の姿があった。

大野泰雄所長による開会の辞のあと、西島正弘前所長・日本薬学会会頭によって、本シンポジウム開催の趣旨と衛研の概要が説明された。その中で国立衛研は医薬品等の品質・安全性・有効性を科学的な面から支える重要な役割を担っているが、意外とそのような面が外部には知られていない。本シンポジウムで、最近の成果をまとめて発表し、その活動をアピールして欲しいとその期待を述べられた。また、この研究所は国民の生命・健康に直接影響を及ぼす医薬品・食品等の安全性に関する試験・研究並びに評価をおこない、国の健康危機管理に直結する業務を行う責務を負っているとの話があった。

この後、医薬品・医療機器関連部長により次の5つの講演が行われた。痩身と強壮をうたう食品中の無許可無承認薬の検出を例に規制と検査法の関係について“ニセ薬の話—モグラ叩きのサイエンス”（生薬部）、生物由来医薬品やバイオ医薬品にまつわる想定を越えた事故・事件について“バイオ医薬品の事件・事故—再発防止に向けて”（生物薬品部）、コンタクトレンズなどの身近な医療機器の使用ミスで発生する事故等の防止方法について“意外と身近な医療機器—事故と安全対策”（医療機器部）、従来特異体質として解明されなかった副作用について、患者のDNA解析によりこれを回避しようとする研究について“稀だけど重い副作用を防止するサイエンス”（医薬安全科学部）、有効性・安全生が確認された医薬品の品質の一定性を確保するための取り組みについて“事件・事故をおこさない—医薬品のライフサイクルマネジメント”（薬品部）。

これらの講演を通じて、国立衛研は国民生活に密着した領域で、科学的知見にもとづき医薬品の安全性・有効性を担保する活動を行い、国民の健康を支えている事が具体的に分かりやすく示された。次いで総合質疑が行われ、盛会の内に閉会した。